

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 18年5月－原油高の影響で 貿易収支は赤字化も、輸出は底堅さを維持

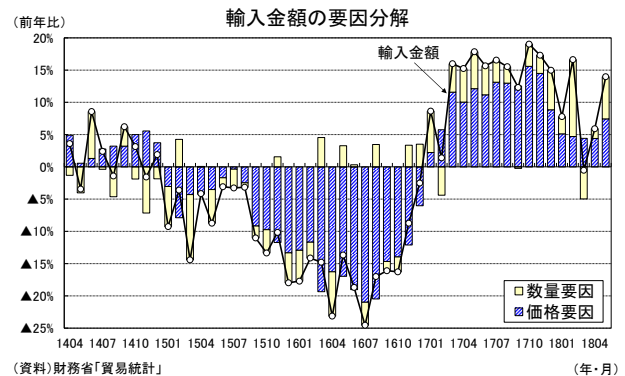
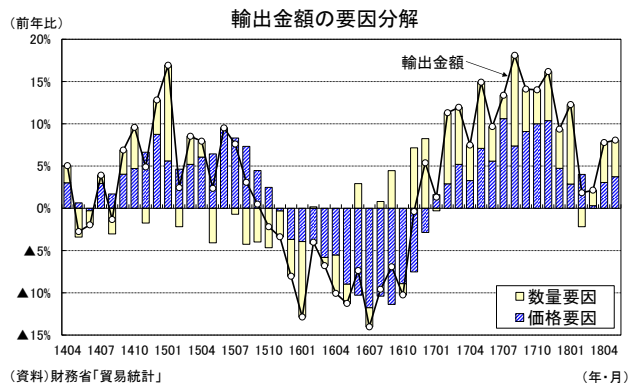
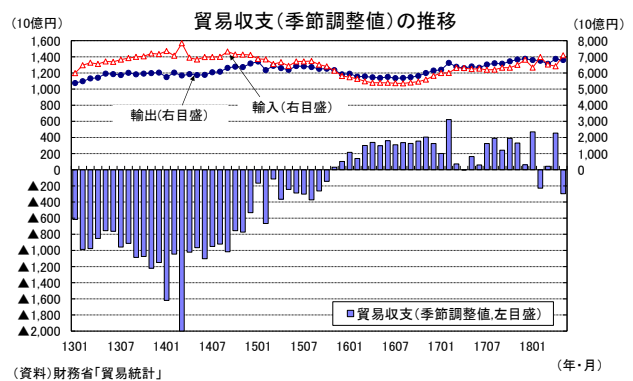
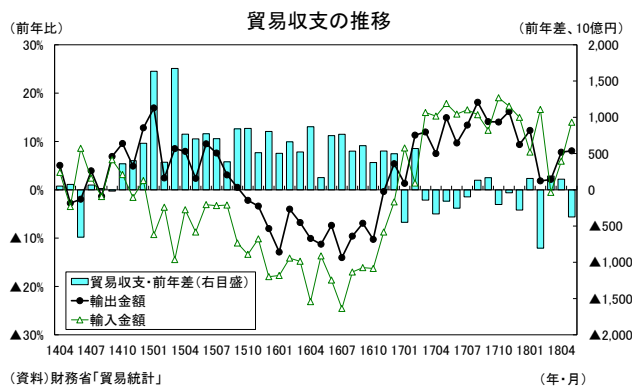
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)が赤字化

財務省が6月18日に公表した貿易統計によると、18年5月の貿易収支は▲5,783億円の赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲2,500億円、当社予想は▲3,694億円）を下回る結果となった。輸出は前年比8.1%（4月：同7.8%）と堅調を維持したが、原油高の影響などから輸入が前年比14.0%（4月：同5.9%）と前月から伸びを大きく高めたため、貿易収支は前年に比べ▲3,739億円の悪化となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比4.2%（4月：同4.6%）、輸出価格が前年比3.7%（4月：同3.0%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比6.3%（4月：同1.5%）、輸入価格が前年比7.2%（4月：同4.4%）であった。

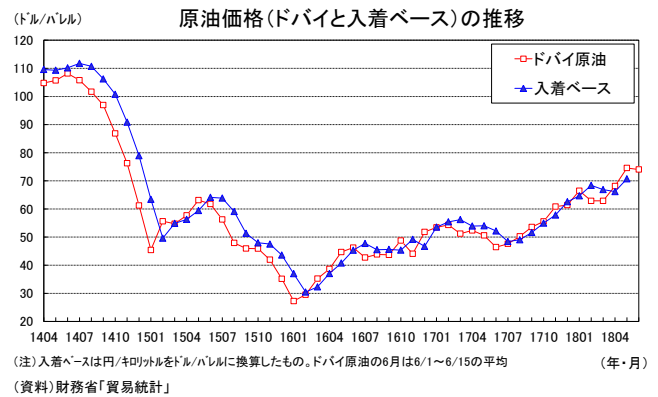


原数値の貿易収支が赤字となったのは、5月はGWに伴う生産停止の影響でもともと輸出量が少

ないという季節性の影響もあるが、季節調整済の貿易収支も▲2,968億円の赤字（4月は4,539億円の黒字）となり、貿易収支は実態とし赤字化したと判断される。

輸出が前月比▲1.0%（4月：同4.7%）と2ヵ月ぶりの減少となる一方、輸入が前月比10.6%（4月：同▲1.6%）の大幅増加となったことが貿易収支を大きく悪化させた。

5月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=70.7ドル（当研究所による試算値）と、4月の66.2ドルから上昇した。足もとのドバイ原油価格は70ドル台半ばで高止まりしており、通関ベースの原油価格は6月には70ドル台後半まで上昇することが見込まれる。貿易赤字（季節調整値）はしばらく継続する可能性が高い。

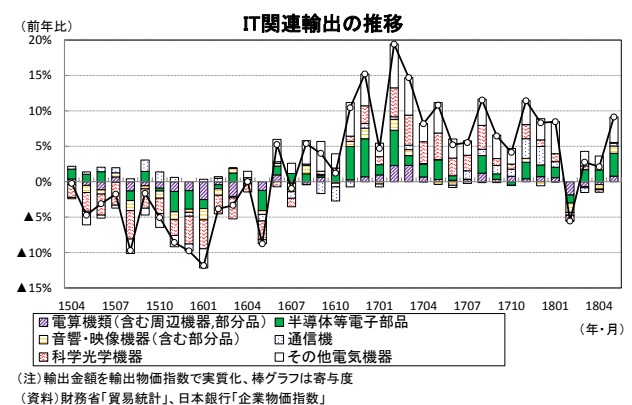
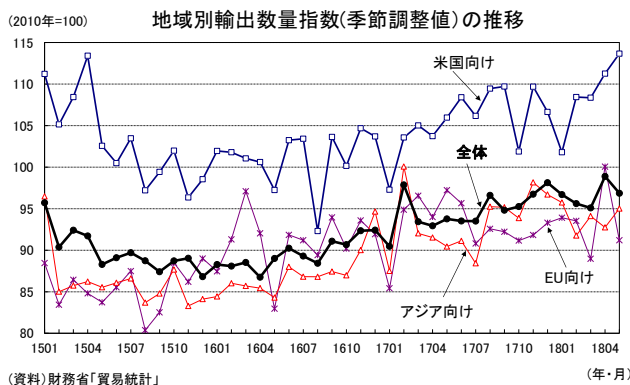


2. 輸出は底堅さを維持

5月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比6.8%（4月：同7.1%）、EU向けが前年比▲6.4%（4月：同6.7%）、アジア向けが前年比4.6%（4月：同1.1%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比2.2%（4月：同2.7%）、EU向けが前月比▲8.9%（4月：同12.5%）、アジア向けが前月比2.5%（4月：同▲1.4%）、全体では前月比▲2.0%（4月：同4.0%）となった。4、5月の平均を1-3月期と比べると、アジア向けは0.0%の横ばいだが、米国向けが5.9%、EU向けが3.8%、全体が2.2%高くなっている。自動車が堅調を維持していることに加え、年明け以降弱めの動きとなっていたIT関連も持ち直しつつあり、輸出は全体として底堅さを維持している。

一方、輸入数量指数（当研究所による季節調整値）の4、5月平均は1-3月期を1.3%上回っているが、輸出の伸びは下回っている。原油高の影響で金額ベースの貿易収支は大きく悪化しているが、実質（数量）ベースの貿易収支は改善傾向が続いている。GDP統計の外需は1-3月期（前期比・寄与度0.1%）に続き4-6月期も実質成長率の押し上げ要因となる可能性が高いだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。